

精神に強いダメージ

大学生ら若者を中心に大麻を所持、栽培するなどの事件が全国で相次いでいる。県内でも昨年、庄川河川敷で大麻草を栽培していた夫婦が逮捕された。インターネットなどで大麻の種子が簡単に入手できることなどが背景にあり、若者を中心に薬物依存症の広がりが懸念されている。県内で薬物依存の問題に取り組む民間リハビリ施設「富山タルク」の責任者、林敦也さん(三巴)愛知県出身に、大麻の危険について聞いた。

大麻の害を聞く

「富山タルク」は昨年五月、富山県高揚感や解放感をさらに求めて、覚せい剤やシンナーを始めるようになった。薬物依存症患者の回復を支援する全国的な施設で、依存症から回復した当事者がスタッフを務める。林さん自身も、大麻やシンナーへの依存を経験した一人だ。

薬物依存のきっかけに

間がかかると林さん。逮捕されたり、

「大麻は精神的依存が強く、イライラや不安が激しくなる」と林さんは話す。薬物依存症は、体と精神の両面で強い依存状態をもたらす。大麻は、震えや冷や汗といった身体的な離脱症状は少ないが、感情の起伏や気分の高揚感が激しくなり、摂取した際の高揚感や解放感を再び得たくなると、やめられなくなる。幻聴や幻覚が

精神病院に入って強制的に薬物をやめても、日常生活のちょっとした落ち込みやショック、孤独感から再び薬物に手を出すケースは絶えない。

聴や幻覚が出ることもある。離脱症状が少ないため害を軽視する人もいるが、「精神的依存を脱するのは決して簡単ではない。大麻は、他の薬物を始めるきっかけになる」と林さん。大麻で

覚せい剤など依存性の強い薬物への入り口

過敏の過聴覚、陶酔感、視覚や聴覚の過敏、離人症状、離人感、フラッシュバック、精神疾患

大麻の主な作用

如欲の欠如、興奮、不安、フラッシュバック、精神疾患

富山タルクでは、薬物依存症の経験者同士が共同生活を送り、本音を話し共感し合う場「ミーティング」や、生活の楽しみを見いだす「レクリエーション」で薬のない生活を目指し、互いを支え合っ



「大麻は精神的依存が強く、ほかの薬物始めるきっかけになりやすい」と話す林さん。

富山県若瀬古志町の富山タルク

富山タルクは薬物依存リハビリテーションセンターの英語の頭文字を組み合わせた名称。全国各地にあり、富山は引かれ所目で、北陸で初の開設。共同生活を通して、覚せい剤、シンナー、市販薬など薬物を使わない生活を指

し、回復者を支える。9カ月〜1年入寮し、ミーティングやレクリエーションといった回復プログラムを受け、就労プログラムに移る。夜は、無料で一般参加できる自助グループのミーティングを県内各地で開催。本人と家族からの相談も受ける。



庄川河川敷で栽培されていた大麻草。昨春秋、砺波署